学生大使　実施報告書

氏名：近藤ほの花
学部・学科（コース）・学年：工学部・高分子有機材料工学科・1 年
派遣先大学：ベトナム国家農業大学
派遣期間：2024 年 2 月 21 日～2024 年 3 月 6 日

１　日本語教室での活動内容

平日 18：00～19：30 の間に授業を行った。日本語教室には主にベトナム国家農業大学の日向クラブの皆さんが参加してくれた。毎回 1～2 人の授業を担当した。少人数での授業だったため、1 人 1 人にあったやり方で教えることができた。日本語を習い始めたばかりの生徒には、日本語文の組み立てをベトナム語の翻訳を介して説明しながら進めていった。その際に、分からない単語を書き取り、発音の練習を取り入れながら授業を展開していった。生徒が持参したテキストの会話練習をしたいと言われたときは、そのテキストに沿って会話練習をした。発音しにくい部分は何度も繰り返して音読した。生徒にとって「さ行」や「た行」の発音が難しそうだと感じた。また、イントネーションにも難しさを感じているようだった。日本語能力試験に向けて学習している生徒には、彼自身が印刷してきた問題の解答をし、分からないところの解説をしていった。特に助詞の付け方に難しさを感じる場合が多いということだった。授業をしていて思ったことは、どの生徒も日本語学習に対する意欲がとても高いということだ。疑問に思ったことはその場ですぐに質問をし、納得いくまで学習しようという姿がみられた。生徒からの質問によって、使い慣れてしまっていた日本語の難しい部分をもう一度発見することができた。このことから、再発見のある興味深く有意義な授業時間を過ごすことができた。

２　日本語教室以外での交流活動

日本語教室が夜だったということもあり、日中は現地学生に様々なところに連れて行ってもらった。その中で特に印象に残ったのは、ホアロー刑務所の見学に行ったことだ。ここはベトナムを統治していたフランスによって建設され、彼らに抵抗するベトナム人が収容されていた場所である。私はこの敷地内がとても不気味に感じられた。なぜなら、建物内はとても涼しく、空気が重く、独房の中は暗すぎて恐ろしさを感じさせる場所だったからだ。当時収容されていた人々の生活の様子や使用していたものが展示されていたが、説明書きを読んだだけでも、とても心が重苦しくなった。当時収容されていた人々の生活や気持ちは計り知れないが、そのような場所・時代があったのだと痛感することのできる訪問だった。
またこの派遣期間中に、山形大学の別のプログラムに参加している山形大学生チームと交流する日があった。彼らはベトナムの水質について学びに来ており、彼らとともにハロン湾周辺の環境について、学びに行った。クアンニン博物館にてハロン湾周辺のこれまでの歴史を学んだあと、英語ガイド付きのクルーズに乗船し、湾に浮かぶ岩や島の見学をした。夫婦の

岩と呼ばれるハロン湾の象徴を見て、降龍伝説のもとになった岩や島の間をクルージングした後、水上生活者の村をシーカヤックで訪ね、説明を受けた。海上で生まれ、今までの人生を船上で過ごしてきた人々がいることに驚愕した。街が発展していくにつれ、村の人口が減ってきているとのことだったが、昔からの伝統がある海上の村が消失してほしくないと思った。
ベトナム 11 日目の朝には、日本から現地大学に留学している学生からサッカーをしようというお誘いがあった。私はスポーツが好きなのでとても嬉しかった。サッカーグラウンドには日本語教室の生徒の他にも多くの人がいた。スポーツをしている中で感じたことは、言語が異なっても協力してプレーをすることが出来るということだ。初めての参加だったにも関わらず現地の方々が温かく接してくださり、現地の方々の優しさに触れることができた。
日本語教室以外での交流は発見がたくさんあり、日本との相違点や共通点、現地学生のことを知れるとても楽しく充実した時間だった。こんなにも新しい発見で溢れている日々は初めてだった。

３　参加目標への達成度と努力した内容

私が派遣前に掲げた目標は 100%達成できたと感じている。なぜなら、日本語教室での授業や日本の文化を紹介する場面で、私が目標に掲げていたことを実際に実践することが出来たからである。生徒が学びたいことと私が準備してきたことを組み合わせながら上手く授業をすることができたと感じている。授業ではホワイトボードを使用し、言葉では伝わりづらい部分を説明した。また、その説明の後に似たような問題を出し、学びの定着を図った。生徒が出来たと感じていることに私も嬉しくなった。コミュニケーションに関しては、目的地に行くまでの時間に主に会話をして交流をしていった。話しかけるまでは緊張していたが、話しかけてみるととても親しみやすく、会話を続けることができた。日本語が伝わりにくい時は英語を使用して会話をすることができたので楽しかった。しかし、語彙力がなく上手く伝えることができない場面もあったため、語学の勉強に力を入れ、今後に生かしていきたいと強く思った。

４　プログラムに参加した感想

私はベトナムについて歴史を習った程度だったが、今回の滞在で現地に行かないと分からないことをたくさん学ぶことができた。大学周辺のお店は肉や果物がそのまま売られていたり、服屋には靴を脱いで入らないといけなかったり、飲食店は椅子がとても低く日本とは異なりすぎる環境に毎回驚いていた。バスは停留所で人を乗せた瞬間に走り出し、スピードのアップダウンが激しく、クラクションで自身のバスの存在を周囲のバイクに知らせていた。日本では、ありえないことだらけの毎日だったが、そんな毎日がとても刺激的で興味深かった。
今回のプログラム中にした体験は、現地学生の学生とともに行動をしたからこそ得られた貴重な経験だ。このプログラムの価値は、日本のことを教え現地学生との交流の輪を広げるためだけではなく、派遣者が派遣国の良さや日本との違いを実際に体感し、それを日本で広めていくことなのではないかと思った。今回のプログラムに参加していたからこそ出会うこと

のできた現地学生及び山形大学の学生との活動によって、得られたことが数えきれないほどある。この経験をされてくれた現地学生、山形大学生に心から感謝をしたい。
一期一会、これは本当に大切だと感じた。

５　今回の経験を踏まえた今後の展望

今回のプログラムは予想を上回る素晴らしい経験ができた。今回のプログラムで得た貴重な学びを私の周りの人に伝えていきたい。また、自分から積極的に行動することの大切さを学ぶことができる良い機会となった。互いの母国語が異なっても日本語や英語を使ってコミュニケーションをとっていけたこと、ベトナムに留学している学生との会話によって、今後の語学学習により力を入れていこうと強く思った。英語のみではなく様々な言語に触れることでより広い世界をみることができると感じた。今後も国際交流の活動に積極的に参加し、私自身の視野を広げ、多様性への理解を深め、将来に繋げていきたい。

６　現地での活動写真

ホアロー刑務所の慰霊碑

【学生大使 実施報告書】

大学前のフルーツショップ

サッカーの仲間

【学生大使 実施報告書】

授業風景